

「社団法人日本分析化学会 会員倫理・行動規範」の制定

ご承知のように、最近数年、データの捏造、科学研究費補助金等の不正使用が発覚し、科学者・技術者のあり方・行動が社会的批判を受けております。本来、科学技術には基礎科学、応用技術の発展を通して、人類の生存基盤の充実と社会経済的な発展に寄与するものとして大きな期待が寄せられてきました。しかし、20 世紀の科学技術の急激な発展は、高度物質文明社会の構築、豊かで快適な生活を創造してきましたが、その反面、最近では環境の悪化、廃棄物の増大、資源・エネルギーの枯渇、食品の安全性、医療サービスの低下等の問題が大きな社会問題となり、人類生存の危機とも懸念される状況を生みつつあります。このような社会的状況において、科学技術が上記の問題解決に貢献してくれることへの期待感があります。このことは、第3次科学技術基本計画で総額 25 兆円の投資が計画されていることにも反映されています。

しかし、このような多額の研究投資の社会的状況においては、成果至上主義の競争社会を生みだし、科学者・技術者のモラル、すなわち行動倫理の低下を招いているとも考えられます。このような行動倫理の低下は、その行為に対する不信のみならず、社会的なモラルや精神文化にも大きな影響を与えることとなります。その意味で、我々科学者・技術者は社会的に大きな責任があることを自覚しなければなりません。

本会においても、会員の中にデータ捏造、不適切経理の嫌疑を受けた会員があり、これまでに2度の特別調査委員会を設置し、調査を行ってまいりました。特別調査委員会の結論については、これまで会長談話として皆様並びに社会的にも公表してきました。さらに本会では、このような科学者・技術者の不正行為・行動に対する社会的批判に対して襟を正すこと、そして本会会員の皆様にも自覚を促す必要があること、本会並びに本会会員の学術活動・技術開発における社会的責任を明確にすること、等を考えて、本年度理事会では「会員倫理・行動規範」の制定を検討してまいりました。この度、組織運営協議会を中心に検討された案が、平成 20 年 2 月 15 日の理事会において「会員倫理・行動規範」として承認されました。よって、会誌「ぶんせき」及び本会ホームページに公開し、会員の皆様に周知するとともに、社会的に公表し、本会の責任を表明することに致しました。

今回の「会員倫理・規範」は会員の皆様の研究・技術開発活動における自覚を促す内容に限定したものとなっています。今後、次世代の人材育成と教育、社会貢献、学会運営等にも言及した規範が求められると思いますので、会員の皆様のご意見を伺って、更に充実した規範として改訂されることを願っております。また、男女共同参画関連の規程は未制定でありますので、次年度理事会でのご検討をお願いしております。

最後に申しておきたいことは、今回の行動・倫理規範は会員の行動を限定するものではなく、皆様が本会会員であることに誇りを持って分析技術の開発と普及活動に取り組み、その結果本会が更に発展することを願うことが趣旨であります。会員の皆様の益々のご活躍とご発展を祈念しております。